第 1 章　伊賀市地域公共交通計画の評価

1-1　　本章の着眼点まとめ

本章では、前計画となる伊賀市地域公共交通計画における数値目標の達成状況や施策の進捗状況を整理します。これより、進捗した施策は継続的に取組みを進めていくこと、進捗がなかった施策は改善や見直しを行うなど、本計画に活かしていきます。

■伊賀市地域公共交通計画の評価まとめ

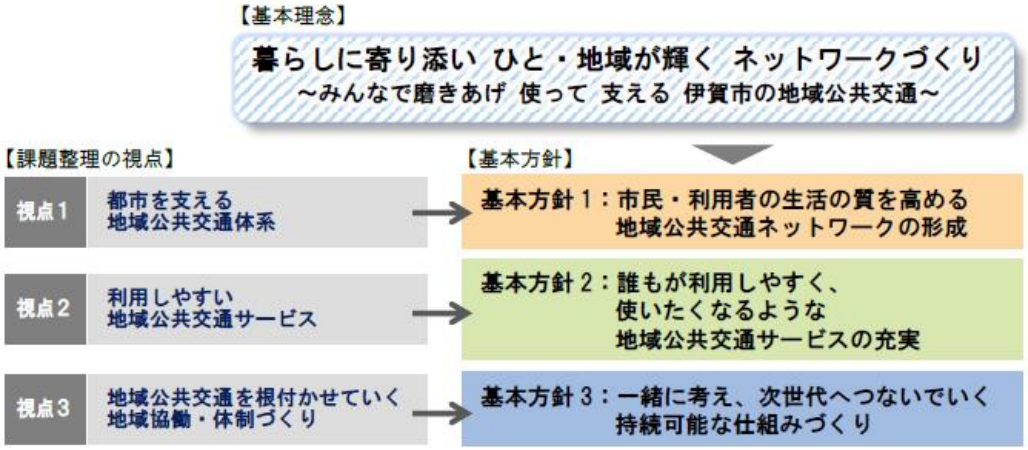
基本方針 1：市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成
○主に以下の施策を推進しました。 ・鉄道事業再構築実施計画の中間評価 ・パークアンドライド駐車場の利用促進 ・既存バス路線に対する利用状況に応じた路線の再編 ・島ヶ原地域でのデマンド運行の実証運行を開始 ・神戸地区における地域運行バスの運行のサポートを行なうとともに、地域運行バス制度の説明を希望する地域への説明会の実施、導入検討する地域との協議 ○各施策を実施していますが、コロナ禍には、バスや鉄道の利用者は減少しており、数値目標は未達成となっております。
基本方針 2：誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実
○主に以下の施策を推進しました。 ・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行 ・伊賀線の利用促進のため、旅行商品の開発や、情報発信、パンフレットの配布 ・JR 関西本線島ケ原駅での乗り継ぎを考慮した、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤの改善 ・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青山行政バスへの混乗を実施 ○一方で、各施策を実施していますが、地域公共交通を利用したおでかけの数値目標は未達成となっており、利用者増加に向けた取組みが重要となります。
基本方針 3：一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり
○主に以下の施策を推進しました。 ・伊賀鉄道の魅力向上、利用促進イベント電車や乗り方教室等の実施 ・伊賀鉄道公式 SNS アカウントによる情報発信 ・コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更 ・従来の伊賀鉄道分に加え、伊賀市民で近鉄・JR・バス等他の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の１／２にあたる金額を助成 ・令和６年８/16～18　第 13 回全国高校生地方鉄道交流会　開催 ○コロナ禍には、地域公共交通への市民の参画度は大幅に減少したと考えられますが、コロナ禍以降も減少しているため、参画度向上に向けた取組みが必要となります。 ○一方で、地域公共交通への市民の満足度はコロナ禍においては減少傾向にありましたが、コロナ禍以降は増加に転じており、目標を達成しました。そのため、公共交通に対する不満事項への改善が見られる結果となりました。

1-2　前計画の概要

伊賀市では、平成 19 年度に「伊賀市交通計画」を策定し、以降、鉄道やバスの活性化、利用促進に取り組んできました。平成 27 年には「伊賀市地域公共交通網形成計画」を策定し、令和２年度までを計画期間として、地域に根ざした持続可能な交通体系の構築を目指してきました。

しかし、計画期間の満了や、関連法（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律）の改正、伊賀鉄道の公有民営化、市役所本庁舎の移転、新駅開業、利用者数の減少、運転者不足、コロナ禍など、環境の変化を受け、前計画を策定しました。

伊賀市地域公共交通計画（令和３年３月策定）
■計画期間
令和３年度～令和７年度
■基本理念
暮らしに寄り添い　ひと・地域が輝く　ネットワークづくり
～みんなで磨きあげ　使って　支える　伊賀市の地域公共交通～
■基本方針
・市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成
・誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実
・一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり



（出典：伊賀市地域公共交通計画（令和３年３月策定））

図 1-1　前計画における課題の視点と基本理念・基本方針の関係性

1-3　事業の進捗状況

前計画では、３つの基本方針に基づき、目標が設定されており、その目標を達成するための実施事業を推進してきました。「目標を達成するための実施事業」は、複数の基本方針や目標にまたがる複合的な効果が整理されています。今回の評価では、目標に直接関係する事業を整理します。

表 1-1　伊賀市地域公共交通計画の事業の取組み事例（抜粋）

基本方針１	市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成
施策の取組状況	・鉄道事業再構築実施計画の中間評価 ・パークアンドライド駐車場の利用促進 ・既存バス路線に対する利用状況に応じた路線の再編 ・島ヶ原地域でのデマンド運行の実証運行を開始 ・神戸地区における地域運行バスの運行のサポートを行なうとともに、地域運行バス制度の説明を希望する地域への説明会の実施、導入検討する地域との協議
基本方針２	誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実
施策の取組状況	・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行 ・伊賀線の利用促進のため、旅行商品の開発や、情報発信、パンフレットの配布 ・JR 関西本線島ケ原駅での乗り継ぎを考慮した、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤの改善 ・伊賀線、近鉄、JR 関西本線、草津線の乗り継ぎ及びコミュニティバス「にんまる」のダイヤがわかる携帯型時刻表の作成・配布 ・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青山行政バスへの混乗を実施 ・関西 MaaS 協議会に登録（準会員）令和５年９月５日 スマホアプリ「KANSAI MaaS」リリース済。アプリで伊賀の名所等の検索も可能
基本方針３	一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり
施策の取組状況	・伊賀鉄道の魅力向上、利用促進イベントの実施 ・伊賀鉄道公式 SNS アカウントによる情報発信 ・線路の枕木やつり革などのオーナーを募集し、地元のマイレール意識を醸成 ・電車の乗り方教室：12 回実施（年間） ・コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更 ・従来の伊賀鉄道分に加え、近鉄・JR・バス等他の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の１／２にあたる金額を助成 ・令和６年８月 16 日～18 日　第 13 回全国高校生地方鉄道交流会　開催 ・運転手の人数や配置等、現状に配慮したバスの運行により、運用の最適化を検討

（1） 基本方針１に関連する事業　※令和６年度の取組み内容

事業No.	施策内容	取組実績（抜粋）	課題及び今後の方向性
01	伊賀鉄道の持続的な事業推進	・地域公共交通活性化再生協議会等の機会に関係機関と協議を進め、令和４年２月に鉄道事業再構築実施計画中間評価報告書を完成させた。	・伊賀線次期鉄道事業再構築実施計画策定に向けた基礎調査（令和６年度実施）を基に、伊賀線の継続的な運営のため、次期鉄道事業再構築実施計画を策定していく必要がある。
		・伊賀鉄道運営費等補助金により伊賀鉄道㈱の経営安定化に努めた。	・「鉄道事業再構築実施計画中間報告書」に基づき、安全運行と経営改善に努める。
		・第二種鉄道事業者である伊賀鉄道㈱と「伊賀線施設保守管理協定」を締結し、適正な管理を行った。 ・国庫及び県補助事業並びに市単事業について協定書を締結し、計画に基づき施行した。 ・毎月、保守会議を開催し、情報の共有を行った。	・「鉄道事業再構築実施計画中間報告書」に基づき、安全運行と経営改善に努める。
02	鉄道駅の結節機能の向上	・市部駅、丸山駅、比土駅の駐車場の周知を図るとともに、草刈り等の保守管理を行った。 ・ギャラリー列車の園児保護者向けの通知文書でパークアンドライド用駐車場を紹介し、利用を働きかけた。 ・市部～ゆめが丘の通勤バス実証運行に向け、駅乗降者数調査と企業ヒアリングを実施。	・伊賀線の利用促進を図るため引き続き、整備に向けた検討を行う必要がある。 ・また、沿線の駐車場・駐輪場を活用しながら、駅の結節機能の向上を図る。
03	高速バス路線の維持	・高速バスの時刻表を市役所などの集客施設に設置し、情報発信を行った。	・高速バス路線は、コロナ禍を受け、減便、縮小の傾向にあるが、状況を見据えながら、利用促進を進める。
04	既存バス路線の改善	・いがまち行政サービス巡回車に、「オークワ伊賀新堂店」のバス停留所を追加した運行ルートや時刻の変更に向け、取組みを行った。（令和７年４月１日改正）	・今後も利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
		・令和６年 10 月１日から、準基幹バスの「諏訪・予野線」の「治田西口」から「金坪」間を、山添村民バスに移行し、路線の改善を図った。 ・令和６年 11 月１日から、準基幹バスの「西山・島ヶ原線」の「中矢」から「やぶっちゃ」間を、島ヶ原ぐるり号の定時定路線に移行し、路線の改善を図った。	・今後も利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
05	地域の実情に応じた交通手段の検討	・地域や関係機関と協議を行い、令和５年８月から島ヶ原地域でデマンド運行の実証運行を開始した。また、令和６年 11 月１日から行き先に「上野市駅」を追加したルート変更や時刻の変更を行い、実証運行を実施した。 ・他地域において、島ヶ原ぐるり号の紹介を行った。	・実証運行の利用状況等を見ながら検証を進め、他地域への展開についても検討していく。
		・地域運行バス制度の説明を希望する地域へ出向き、住民自治協議会役員等へガイドラインの説明や事例紹介を行うとともに、導入を検討している地域からの相談に対応し、関係機関への確認等を行った。 ・神戸地区の継続的な運行に向けて、財政支援やサポートを行った。	・モデル地区（神戸地区）の運行継続に向けて、市として引き続きサポートを進めていくとともに、導入検討いただける地域については、モデル地区の具体的な取組事例等を示しながら、協議を進めていく。
06	地域拠点における乗継環境の改善	・伊賀支所移転に伴い、いがまち行政サービス巡回車のバス停留所名を変更し、新しい伊賀支所前に、いがまち及び阿山行政サービス巡	・利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。

		回車、廃止代替バス柘植線のバス停を集約し、環境改善を行っている。	
		・いがまち・阿山・大山田・島ヶ原行政サービス巡回車の時刻表示について、劣化した案内表示の取り換えを行った。	・利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
07	隣接市町村への路線網の創出検討	・山添村コミュニティバスの運行ルートの変更について、山添村と調整を図り、令和６年 10 月１日から運行ルートの変更を行った。	・利用状況を検証しながら、定住自立圏内の移動需要を支えるにあたっての連携策を模索していく。

(2) 基本方針２に関連する事業

事業 No.	施策内容	取組実績（抜粋）	課題及び今後の方向性
08	JR 関西本線、草津線および近鉄大阪線のサービス改善	・関係自治体や関係促進団体と連携し、JR 西日本に対し、運行本数の維持を重点項目として加茂～亀山間の電化（加茂～柘植間の段階的早期着手）や草津線の運行本数改善について要望を行った。 ・JR 東海に対し、名古屋都市圏からのイベント列車や臨時直通列車の運行、JR 西日本や沿線自治体等との連携強化による広告宣伝等積極的な取組みの実施等について要望を行った。 ・関西本線沿線ウォーキングを年５回実施した。 ・関西本線木津亀山間活性化同盟会と滋賀県草津線複線化促進期成同盟会と連携して制作したプロモーションポスターを関西圏の主要駅に掲出し誘客を図った。 ・臨時直通列車の実証運行の際に市内観光団体等と連携し、来訪者へのおもてなしを行った。 ・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行した。 ・草津線の活性化を図るため、フォトコンテストを実施した。	・大阪・関西万博の開催やインバウンド拡大の好機を捉え、関西方面からの誘客・利用促進に向けた取組みを展開していく。
		・近鉄大阪線について、運行本数の維持や伊賀線との接続改善等、利便性確保のため、近鉄㈱と優良な関係を続けており、特急列車の現状本数の維持など便数確保に努めている。	・利用状況を確認しながら、引き続き必要な連携協力を検討していく。
		・柘植駅、新堂駅、佐那具駅、島ケ原駅について、沿線地域と協議を行いながら、各駅の運営継続に取り組んでいる。	・利用状況を確認しながら、今後も沿線地域と連携して、各駅の運営を継続していく。
09	伊賀鉄道の利用促進	・忍者パック実績（2,730 名） ・その他ツアー団体（1,689 名） ・JR 西日本・近鉄と連携した旅行商品の造成「(ICOCA で GO) 京都・伊賀 お茶と忍者の里タイムトラベルパス」ほか ・近鉄 YouTube「本日、旅ロケで不在です」伊賀取材 ・近鉄 GHD 台北支社による伊賀市内取材（台湾の人気家族ブロガーによる SNS 発信）	・今後もさらなる集客のため、乗ること自体を楽しめる魅力のある列車づくりとして、車内での楽しみ方やイベントの企画について検討のほか、関係他社との連携にも引き続き取り組んでいく。
		・パンフレット「伊賀鉄道ええとこガイド」を 1,000 部増刷し、各種イベントで配布・配架 （配布先例）	・地域住民だけでなく、圏域外の方に対しても PR 活動を行うことができた。今後も機会を捉え

		・各地のショッピングモールで行われる三重県フェア ・関西内外で行われる鉄道イベント ・関西本線実証列車運行 ・市他課が関係する諸イベントに提供・配布依頼	てマップ等の作成を進めていく。また「伊賀鉄道ええとこガイド」の改訂を検討する。
		・子供に対するマイレール意識の醸成に向けて、伊賀鉄道の利用促進補助金制度についての情報を令和６年５月に個別の学校、園に対し、メールもしくは郵送にて送付した。 ・延べ 21 団体（利用者 605 人）に対して、50,324 円の補助を行った。	・今後も、同線の利用促進及びマイレール意識の醸成の観点から、より使いやすい補助制度への変更と積極的な PR を行っていく。
10	乗り継ぎしやすいダイヤ設定と周知	・令和６年 11 月１日から、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤを、JR 関西本線島ケ原駅での乗り継ぎを考慮したダイヤに改善した。	・情報収集に努めるとともに、利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
		・伊賀線、近鉄、JR 関西本線、草津線の乗り継ぎ及びコミュニティバス「にんまる」のダイヤがわかる携帯型時刻表を作成し、駅、市庁舎、地区市民センターなどで配布した。（作成部数：2,900 部） ・冊子での配布に加え、市ホームページでの公開を行った。 ・表紙に伊賀市で開催された第 13 回全国高校生地方鉄道交流会写真コンテスト伊賀市長賞作品を採用した。	・引き続き情報収集に努めながら、携帯型時刻表等、必要な情報提供を行っていく。
11	施設と連携したバス待合い環境の改善	・コミュニティバス「にんまる」のダイヤや路線がわかる携帯型時刻表を作成し、駅、市庁舎、地区市民センターなどに設置した。	・引き続き、携帯型時刻表等を作成し、必要な情報提供を行っていく。
12	わかりやすい情報発信と情報活用	・携帯型時刻表を 2,900 部作成（「施策番号 10」に同じ）。また、冊子での配布に加え、市ホームページでも公開し遠方の人などへの情報提供を行っている。 ・海外からの観光客への宣伝強化を目的として伊賀鉄道ホームページの多言語化を行っている。 ・X（旧 Twitter）の伊賀鉄道公式アカウントやホームページでの迅速な運行情報の提供を行っている。 ・「南海トラフ地震臨時情報『巨大地震注意』」への対応を HP、X で発信。 ・バスの運休や迂回が生じる際には、市ホームページで情報提供を行った。 ・上野市駅の行先案内表示器のデジタル化により、多言語表記、音声案内、テロップによる情報提供を実施中。	・利用状況を確認しながら、必要な改善策を引き続き検討していくとともに、既存の物については、現状と異なった情報を提供することのないよう点検を行っていく。
		・標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）データの整備を進め、令和３年５月より Google 等地図検索サービスで市内の公共交通の時刻や経路を検索できるようにしている。	・データの整備により検索が便利になったため、今後はそのことを活用した利用促進策を検討していく。
13	利用しやすい運賃制度の構築	【伊賀鉄道】 ・１日フリー乗車券発売枚数　紙券　7,161 枚 同上　デジタル総計 601 枚（おまけつき含む） ・エコロジーパス発売枚数　２枚 ・沿線の飲食店やイベントと連携した１日フリー乗車券「RYDE PASS」を発売中。 ・謎解き探訪アプリ「たまむすび」発売枚数（デジタル１日フリー乗車券付き）76 枚	・利用状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。 ・収益増につながる付加価値の検討を行っていく。

		・スマホ定期券「バスもり！」発売枚数 1,068 枚 ・ICOCA 定期券 発売枚数　1,584 枚 ・上野市駅窓口にクレジット決済導入（ICOCA 定期購入時） 【青山行政バス】 ・令和６年２月１日より交通系 IC カードの利用が開始している。	
		・交通事業者の制度や他市の事例等の研究を行っている。	・交通事業者の制度や他市の事例等も研究しつつ、運転免許返納者の公共交通機関利用への転換による利用促進及び路線の持続性の観点から制度検討を進めていく。
14	公共交通とスクールバスの連携	・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青山行政バスへの混乗を実施している。	・教育委員会や運行事業者と連携し、沿線地域、学校、保護者等と協議を進めながら、より効率的な運行体系を検討していく。
		・島ヶ原地域で新しい運行形態の導入検討を進めるにあたり、地域や教育委員会と連携しながら検討を行い、スクールバスと公共交通との役割分担を明確にして、令和５年８月から新しい運行体系での運行を開始している。	・教育委員会や運行事業者と連携し、沿線地域、学校、保護者等と協議を進めながら、より効率的な運行体系を検討していく。
15	安全・安心・快適な環境整備	・上野市駅トイレのバリアフリー化及び洋式化を行った。（令和６年 12 月 10 日供用開始） ・伊賀鉄道車両に車内防犯カメラを設置している。	・利用状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。
		・市街地東部地域トイレ（広小路駅前）清掃業務委託 ・駅前駐輪場等の管理業務委託、放置自転車等の調査・撤去	・状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。
16	タクシーのサービス充実・利用促進	・ライドシェアの導入について、先進市町の調査・研究を行った。	・今後、新たなサービスについて他市の先進事例等の調査・研究を行う。
17	伊賀鉄道の二次交通の充実	・伊賀鉄道ホームページや SNS を通じて周知に努めている。 ・サイクルトレインを実施している。 ・近鉄サイクルトレイン「KettA」臨時列車の伊賀神戸駅停車 ・10/21 サイクルトレイン区間延長実施（比土～伊賀神戸）	・営業終了したレンタサイクルについて他駅等での再開を検討する。
18	新たなモビリティサービスの積極導入	・他地域の自動運転車両等について、試乗会に参加し情報収集を行った。	・状況を確認しながら、導入についての調査・研究を行う。
		・関西 MaaS 協議会に登録（準会員）（令和５年９月５日 スマホアプリ「KANSAI MaaS」リリース済。アプリで伊賀の名所等の検索も可能） ・RYDE PASS アプリでの１日フリー乗車券（市内の商店等とコラボしたおまけサービス付き企画乗車券）での利用促進も継続実施中。	・乗車券からさらに他のサービスにつながる展開を考えていくとともに、収益増につながる付加価値の検討を行っていく。

(3) 基本方針３に関連する事業

事業 No.	施策内容	取組実績	課題及び今後の方向性
19	地域・住民と連携した伊賀鉄道の	・伊賀鉄道の利用促進イベントの実施 ○5/3　伊賀線まつり・バイク「Ninja」とのコラボイベント	・継続的に実施しているイベントは既に定着しており、多くの参加者に好評をいただいている。

	支援・魅力づくりの継続・強化	○6/9　第12回全国高校生地方鉄道交流会事前学習会 ○7/21　花火鑑賞列車 ○8/16～18　第13回全国高校生地方鉄道交流会 ○9/16　お月見列車運行 ○9/30～10/19、11/25～12/14 芭蕉祭俳句列車 ○10/21 いがてつマルシェ開催 ○1/25　甘いもんとれいん ○2/16・22　JR関西本線臨時列車の旅　車庫見学プラン ほか団体貸切列車等運転	さらなる集客を目指し、列車に乗ること自体を楽しめる魅力のあるイベント列車づくりのため、車内での楽しみ方の工夫や、芭蕉祭、上野天神祭等、沿線行事に合わせたイベント列車の運行などの連携策を検討しながら、引き続き取り組んでいく。
		・伊賀鉄道の魅力向上に向けた、ギャラリー列車を運行した。(18回運行、延べ23団体、582枚掲示) ・オリジナルヘッドマーク掲出、グッズ通信販売、車内FREE-Wi-Fi設置、駅記念スタンプ設置。 ・イベント物販 ○4/20,21 近鉄鉄道まつり in 塩浜 ○4/29　養老鉄道まつり ○5/3　伊賀線まつり2024 ※近鉄・JRとのコラボ商品発売 ○8/10,11 大和鉄道まつり ○10/6　国際交流フェスタ ○10/12,13 芭蕉路バル ○10/13　金山鉄道まつり ○10/19　いがてつマルシェ ○10/20　きんてつ鉄道まつり in 五位堂 ○11/30,12/1 万博鉄道まつり2024with観光EXPO ○12/22　近鉄・伊賀鉄道共催ハイキング ・タイアップトレイン等 ○6/15～7/7　アロマ＆フラワートレイン（メナード青山） ○7/3～　上野市駅七夕飾り（白鳳幼稚園） ○8/1～8/30　伊賀焼風鈴列車 ○10/7～11/25 セージトレイン（メナード青山リゾート）	・収益増につながる多様な付加価値のあるグッズの企画・販売を引き続き行っていくため、新たな素材に広くアンテナを張り、作成販売等を行う。 ・また、伊賀市ふるさと納税返礼品に伊賀鉄道グッズを登録することを検討していく。
		・伊賀鉄道公式SNSアカウントにより情報発信を行った。 ・SNSフォロワー数 X（旧Twitter)： 9,698人 Instagram：2,852人 Facebook：1,342人	・様々な媒体を活用して上手に伊賀鉄道のPRを図り、さらなる誘客と増収に努める。
		・線路の枕木やつり革などのオーナーを募集し、地元のマイレール意識を醸成するとともに、より幅広い支援を仰いだ。 ○まくら木オーナー 152口 ○つり革オーナー　88口	・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組みだけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体的な取組を促し、活用の意向を探っていく。
		・茅町、四十九、丸山、新居の4駅でネーミングライツによる副駅名掲出を行っている。	・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組みだけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体的な取組みを促し、活用の意向を探っていく。

		・伊賀鉄道友の会会員数 ○令和６年度末現在 一般会員：95 口、学生会員：３口、 法人会員：17 口、ボランティア会員：３口、 計 118 口 ・電車の乗り方教室 ○12 回実施　234 人参加（10 保育園・幼稚園 204 人、小学生伊賀線教室 30 人）	・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組みだけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体的な取組みを促し、活用の意向を探っていく。
20	地域・住民と連携したバス交通の支援・魅力づくりの継続・強化	・他市町の行政バス等の事例について情報収集を行っている。 ・令和６年４月１日から、コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更した。	・他市町の事例等も研究しながら、当市にあった制度設計を行っていく。
		・伊賀線まつりや伊賀市国際交流フェスタにて、コミュニティバス「にんまる」車両の展示やペーパークラフトの配布を行った。	・バスへの理解を深めるため、今後も関係機関の協働による実施を働きかけていく。
		・問い合わせをいただいた方へ、携帯型時刻表の提供や、利用モデルダイヤの作成・提供を行った。	・今後は、地域のまちづくりやイベント等で中心となる自治組織の代表等が委員を務める地域部会等の場で情報共有し、取組みのテーマのひとつとしていただく等、地域との連携を深めながら具体的な検討を進めていく。
21	高校生の通学交通を対象としたモビリティマネジメントの展開	・従来の伊賀鉄道分に加え、伊賀市民で近鉄・JR・バス等、他の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の１／２にあたる金額を助成した。 ・伊賀鉄道　延べ 1,176 件、892 人、25,659,400 円 ・公共交通　延べ 1,549 件、1,193 人、47,353,700 円 ・４月に市内および名張市内の高校や高等専門学校等を訪問して、通学定期券購入費助成制度の周知活動を実施した。 ・１月～２月にはメール配信等による再度の周知依頼を行った。	・学校や地域と連携しながら、学生へのモビリティマネジメントを進めていく。また、助成制度等については、今後も利用促進及びマイレール意識醸成の観点から、積極的な PR を行っていく。
		・令和６年８月 16 日～18 日　第 13 回全国高校生地方鉄道交流会　開催 ・10 月 20 日同上　ヘッドマーク授与式 ・関西本線臨時直通列車の実証運行に伴う来訪者のおもてなしの一環で伊賀上野駅にある駅ピアノを活用した演奏会を開催した。	・連携できる方法を模索しながら、一緒になった取組みを進めていく。
22	市内事業所への通勤交通を対象としたモビリティマネジメントの展開	・商工、観光関係団体等で構成する JR 関西本線利用促進と電化を進める会とともに、国際交流フェスタにおいて啓発物品を配布し利用促進を図った。 ・JR 関西本線利用促進と電化を進める会による「JR 関西本線団体利用促進補助金」については、令和６年度は、延べ７団体に対して、交付額総計 7,818 円の補助を行った。	・各種助成・補助制度については、今後も利用促進及びマイレール意識醸成の観点から、積極的な PR を行っていく。 ・また、公共交通利用促進に関する情報発信や啓発に努めるとともに、イベント開催等の情報収集を積極的に行っていく。
		・10 月～12 月を公共交通利用促進期間と設定し、通勤・出張時における公共交通機関の利用について、通勤モデルダイヤの提示やパークアンドライド駐車場の紹介を行いながら、市役所各部署宛て協力依頼を行った。 ・利用促進期間にあわせ、JR 佐那具駅前の市営駐車場の無料開放を行った。	・取組みを企業等民間団体や市民全体にまで拡げていく必要がある。 ・市職員が率先垂範して実行できるよう、各自の通勤モデルパターンを示すなど、具体的な働きかけをさらに強化しつつ、引き続き実施する。

23	広報誌・動画による情報発信	・伊賀鉄道に係る話題や、公共交通利用促進を図る内容等を、偶数月に広報いがに掲載した。	・情報収集を行いながら、積極的な情報提供を行っていく。
		・広報いが等にてイベント情報を発信した。 ・伊賀線まつり 2024 やいがてつマルシェの開催チラシを伊賀鉄道㈱と連携し、市内幼稚園、保育所（園）、小学校へ配布した。 ・伊賀線まつり 2024 やいがてつマルシェのポスターを鉄道他社・他市でも掲示していただいた。 ・沿線のイベント開催情報や各種オーナー等の告知を、伊賀鉄道 SNS にて発信した。 ・伊賀線活性化協議会では、加盟団体に向け、伊賀線に関する話題をメルマガ形式で毎月発信。	・情報収集を行いながら、積極的な情報提供を行っていく。
		・行政情報番組にて、通学定期券購入費助成制度や公共交通利用促進期間の周知などを実施した。	・様々な機会を捉え、情報発信を行っていく。
24	公共交通の担い手担保	・伊賀鉄道で自社採用を進めている。	・関係機関と連携して、人材確保に努めていく。
		・バス車内に運転手募集広告の掲示を行っている。	・関係機関と連携して、運転手の確保に努めていく。
		・運転手の人数や配置等、現状に配慮したバスの運行により、運用の最適化を図っている。	・関係機関と連携して、取組みを進めていく。

1-4　数値目標の達成状況

前計画では基本方針に基づいた目標ごとに、達成すべき数値目標を設定しています。数値目標の評価指標及び、目標値は以下のとおりです。

基本方針１については、コロナ禍の影響もあり、全ての項目で未達成でした。しかしながら、コロナ禍以降は回復傾向が見られるため、引き続き、ネットワークの形成に向けて取組みを進めてまいります。

基本方針２については、「時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度」及び「乗継利便性に対する満足度」の項目について、達成しており、公共交通サービスが充実したと感じる方が増加したと考えられます。一方で、公共交通を利用した外出は未達成であり、今後は、利用者を増加させる取組みが重要となってきます。

基本方針３については、「市民の公共交通の満足度」及び、「市民の公共交通の利用割合」は目標を達成している一方で、「市民の公共交通の参画度」は未達成となっています。今後は、公共交通をみんなで支える意識醸成が重要となってきます。

表 1-2　伊賀市地域公共交通計画の数値目標と達成状況

	目標	評価指標	策定時	現況値（R6）	目標値（R8）	達成／未達成
市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成	公共交通軸の伊賀鉄道の利用者数の増加	**伊賀鉄道の年間利用数**	1,279,625人/年※1	1,163,669人/年	1,568,000人/年	未達成
	公共交通軸・補完交通のバスの利用者数の維持	**バスの年間利用数**	503,269人/年※1	355,324人/年※4	503,000人/年	未達成
	街の拠点と居住地を結ぶ公共交通ネットワークの構築	**広域拠点・地域拠点のバス停までアクセス可能な人口割合**	73.7%※2	74.8%	80%	未達成
	都市部への通勤・通学環境の充実による市外への転出者数の抑制	**市外への転出者数**	2,370人/年※3	2,386人/年	2,200人/年	未達成
誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実	利用しやすさの向上に向けた路線・乗換案内の充実	**時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度**	73.5%※2	83.7%※4	80%	達成
	乗り継ぎしやすさの向上に向けた乗継利便の充実	**乗継利便性に対する満足度**	46.7%	61.4%※4	60%	達成
	地域公共交通を利用したおでかけの増加	**公共交通を利用した外出回数**	5.4回/月※2	2.83回/月※4	現況値以上	未達成
一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり	地域公共交通に対する市民の参画度の向上※5	**市民の公共交通への参画度**	38.1%※2	16.5%	45%	未達成
	地域公共交通に対する市民の満足度の向上※6	**市民の公共交通の満足度**	20.0%※2	26.0%	25%	達成
	市民の地域公共交通の利用割合の増加	**市民の公共交通の利用割合**	32.6%※1	44.1%※4	40%	達成
	地域公共交通がもたらすクロスセクター効果の維持	**クロスセクター効果**	1.5億円※1		現況値の維持	0.2億円※7

※1…R1 年の値、※2…R2 年の値、※3…H27～R1 年の平均値、※4…R7 年の値
※5…本項目の参画度は「重要」と「やや重要」の割合の合計とする。
※6…本項目の満足度は「満足」と「やや満足」の割合の合計とする。
※7…前回策定時よりクロスセクターの計算方法が異なるため、比較不能である。

(1) 基本方針1：市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成

① 目標①：公共交通軸の伊賀鉄道の利用者数の増加

前計画での目標値は、1,568,000 人/年で、令和６年の利用者は 1,163,669 人/年でした。計画策定時からの推移をみると、コロナ禍である令和２～３年に、利用者数が低下していることがわかります。コロナ禍以降には、コロナ禍に比べて、利用者数が徐々に回復傾向にありますが、コロナ前の利用者数に戻っておらず、目標値も未達成です。

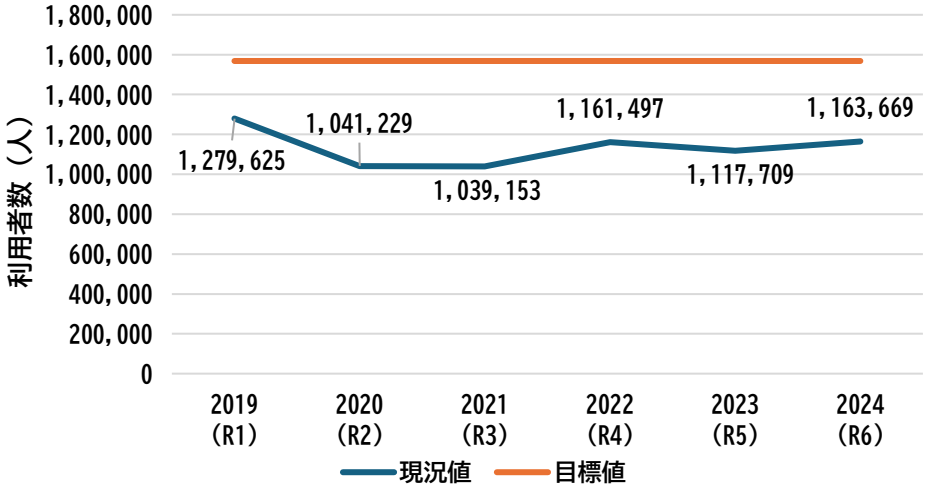


図 1-2 伊賀鉄道の利用者数の推移

② 目標②：公共交通軸・補完交通のバスの利用者数の維持

ここでのバス利用者数は、「営業路線バス・廃止代替バス・行政バス・コミュニティバス」の利用者数を集計しています。

前計画での目標値は、503,000 人/年であり、令和６年の現況値は、355,324 人/年でした。コロナ禍の影響として令和２年から、利用者数が低下しています。コロナ禍以降には、コロナ禍に比べて、利用者数が微増していますが、コロナ禍以前の利用者数に戻っておらず、目標値も未達成です。

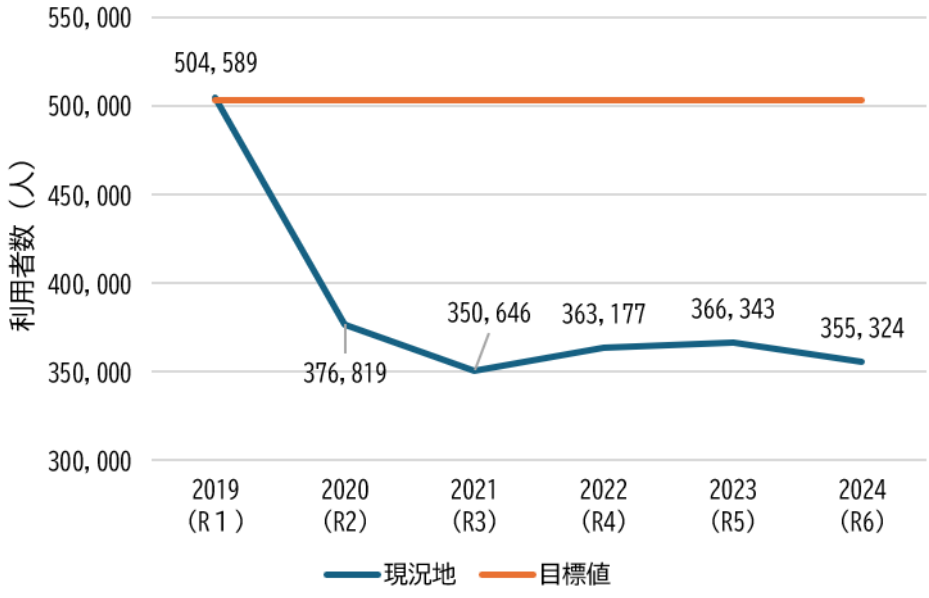
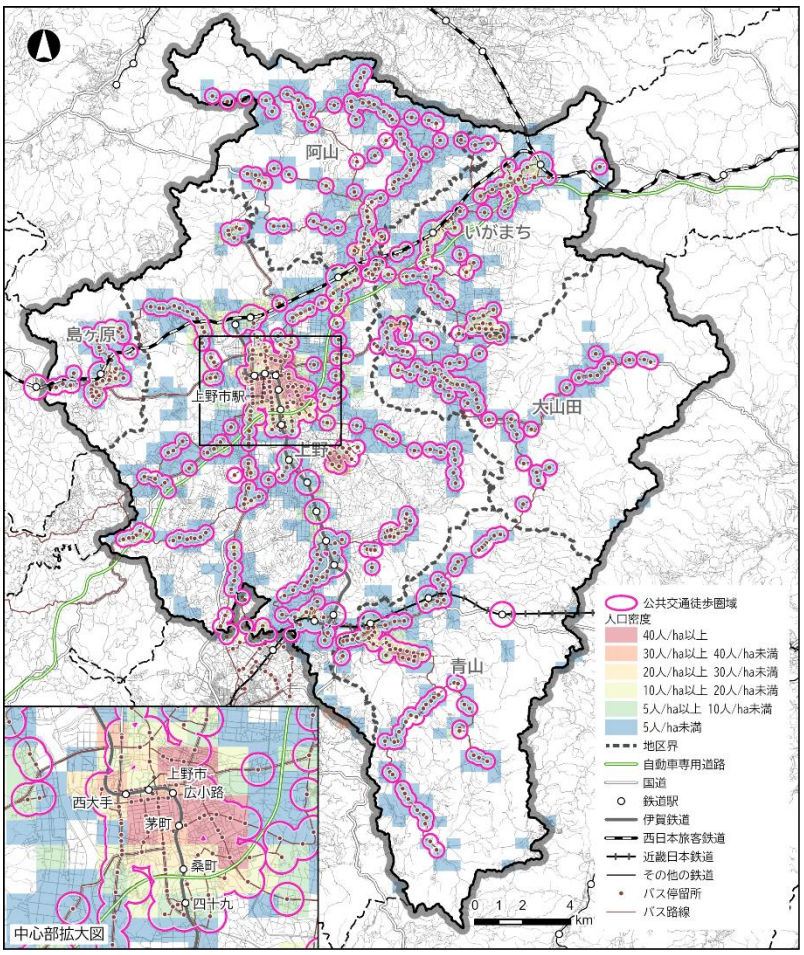


図 1-3 バスの利用者数の推移

③　目標③:街の拠点と居住地を結ぶ公共交通ネットワークの構築

前計画の目標値は 80%であり、令和６年の現況値は 74.8%でした。しかしながら、策定時（令和２年）は 73.7%であったことから、増加傾向であると言えます。引き続き公共交通ネットワークの構築に向けた取組みを進めてまいります。



④　目標④:都市部への通勤･通学環境の充実による市外への転出者数の抑制

前計画の目標値が１年あたり、2,200 人以下で、現況値は、１年あたり 2,386 人であったことから、目標は未達成でした。達成した年度は令和２年のみでしたが、直近２年は減少傾向にあることから、転出者数が抑制されつつあります。

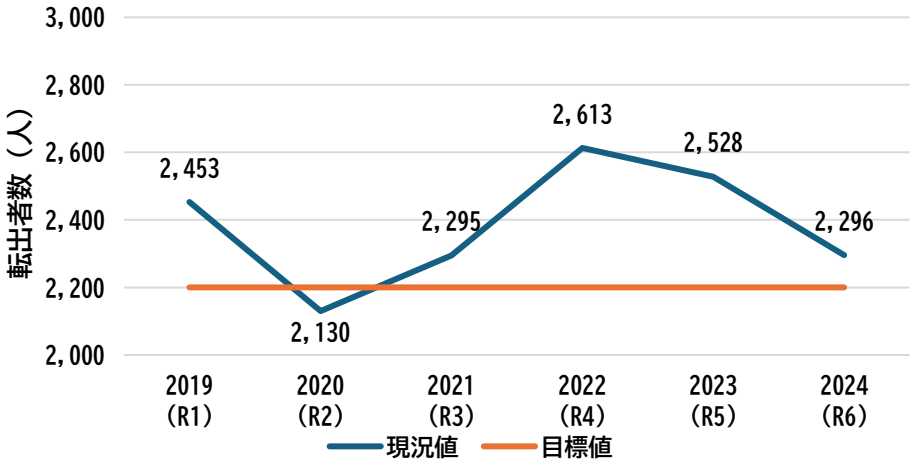


図 1-4　転出者数の推移

（2） 基本方針2：誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実

① 目標⑤：利用しやすさの向上に向けた路線・乗換案内の充実

利用者アンケート調査の時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度（「満足」「やや満足」の合計）から算出しています。

前計画の目標値は 80%で、令和７年の現況値が 83.7%であったことから、目標を達成しました。

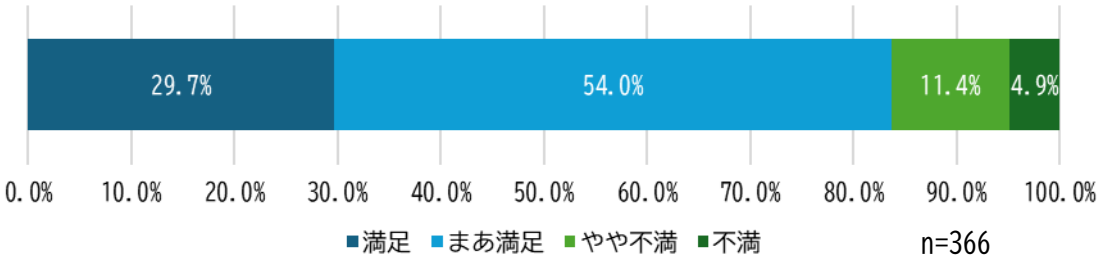


図 1-5　利用者アンケート調査：時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度

② 目標⑥：乗り継ぎしやすさの向上に向けた乗継利便の充実

利用者アンケート調査の乗り継ぎ利便性に対する満足度（「満足」「やや満足」の合計）から集計しています。

前計画の目標値では 60%で、令和７年の現況値が 61.4%であったことから、目標を達成しました。

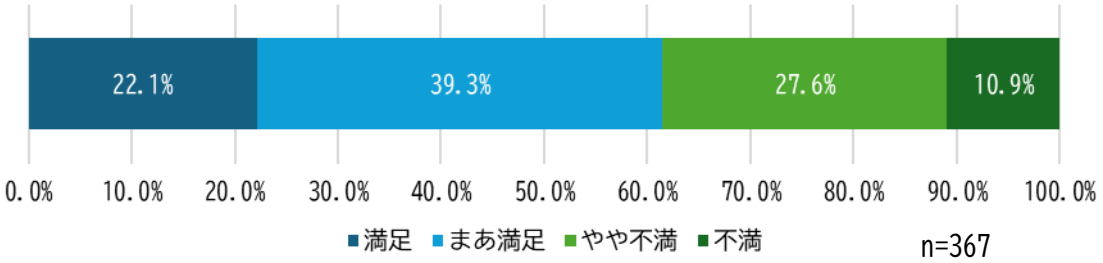


図 1-6　利用者アンケート調査の乗り継ぎ利便性に対する満足度

③ 目標⑦：地域公共交通を利用したおでかけの増加

市民アンケート調査における市民の外出頻度より、日々の「通勤」「通学」目的以外の「買物」「観光・娯楽」「通院」目的で、公共交通を利用した外出回数を算出しました。外出日数は、回答ごとに下表のように定め、合計外出日数を回答者で除すことで算出しています。

表 1-3　選択肢ごとの外出日数の定義

選択肢	ほぼ毎日	週に 2~3 回	週に 1 回	月に 2~3 回	月に 1 回	年に数回
日数(回/月)	20	10	4	2.5	1	0.5

前計画での目標値が現況値（5.4 回/月）以上で、2.83 回/月であったことから、目標は未達成でした。

(3) 基本方針3：一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり

① 目標⑧：地域公共交通に対する市民の参画度の向上

まちづくりアンケート調査の「自家用車に過度に依存することなく、節度を持って交通手段を選んでいる」の回答結果（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）から算出しています。

前計画での目標値は 45%、令和６年の現況値は 16.5%であり、目標は未達成でした。コロナ禍の影響で、参画度が減少したと考えられますが、コロナ禍以降にも低下していることが確認できるため、参画度向上に向けた取組みが必要です。

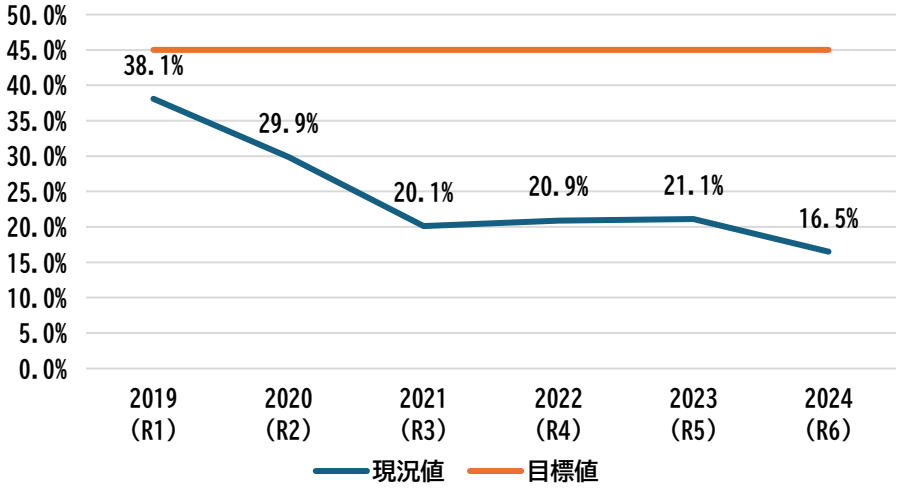


図 1-7　市民の公共交通への参画度の推移

② 目標⑨：地域公共交通に対する市民の満足度の向上

まちづくりアンケート調査の「身近なバスや鉄道に愛着を持ち、みんなで支えている」の回答結果（「満足」「どちらかといえば満足」の合計）から算出しています。

前計画での目標値は 25%、令和６年の現況値は 26%であり、目標を達成しました。コロナ禍の令和２年から令和５年にかけて減少傾向でしたが、令和６年に増加に転じています。

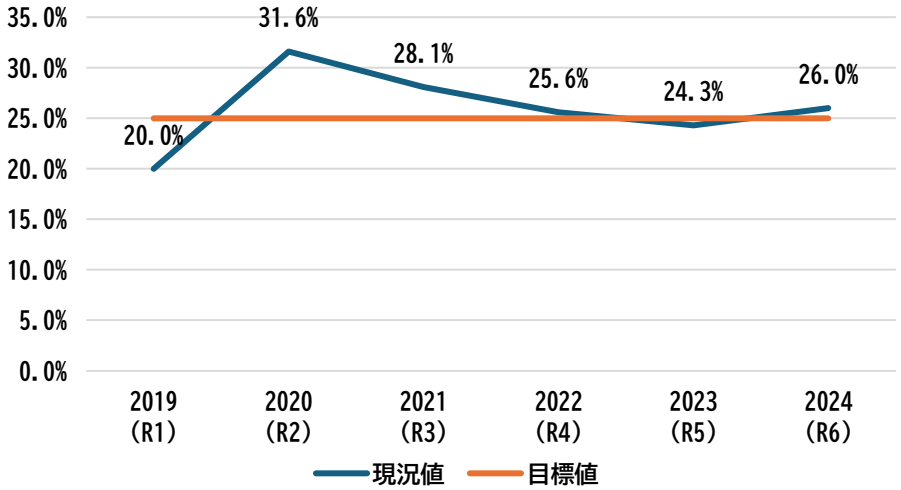


図 1-8　市民の公共交通への満足度の推移

③　目標⑩:市民の地域公共交通の利用割合の増加

市民アンケート調査において、「１年間の市内の公共交通を利用する割合」の問に対して、「利用した」と回答した人の割合を算出しています。

前計画の目標値は、40%、令和７年の現況値は、44.1%であり目標を達成しました。

④　目標⑪:地域公共交通がもたらすクロスセクター効果の維持

伊賀市では、路線バスの運行のために年間 2 億 1,661 万円（R６年実績）の財政支出を行っていますが、「医療」「商業」「教育」「観光」「福祉」「産業」の各分野において、路線バスが廃止された場合に必要となる代替施策の費用を算出すると、年間 2 億 3,959 万円となり、クロスセクター効果は 2,299 万円となります。今回の数字の減額は、算定方法の変更と、利用者数の減少が主な理由です。

表 1-4　路線バスが廃止された場合の代替費用の算出

分野	路線バスが廃止された場合に 追加的に必要となる行政負担項目	実施施策費用 （千円/年） 合計値には各分野で最も 少額の項目を採用（赤字）
医療	病院送迎貸切バス運行	**27,685**
	病院送迎貸切タクシー運行	施策なし
	通院のためのタクシー券配布	82,609
商業	貸切買物バス運行	**43,467**
	貸切買物タクシー運行	施策なし
	買物のためのタクシー券配布	107,392
教育	貸切スクールバス運行	**33,594**
	貸切スクールタクシー運行	施策なし
	通学のためのタクシー券配布	346,879
観光	観光地等送迎貸切バス運行	43,468
	観光地等送迎貸切タクシー運行	施策なし
	観光施設等へのタクシー券配布	**52,026**
福祉	私用のための貸切送迎バス運行	**41,737**
	私用のための貸切送迎タクシー運行	施策なし
	私用のためのタクシー券配布	63,609
産業	企業送迎バス運行	**49,643**
	企業送迎タクシー運行	施策なし
	通勤のためのタクシー券配布	252,276
	合計代替費用	**239,594**

※平日または休日に運行不可（乗車オーバー）の場合は、施策なしとした